

兵庫県産タマムシ類*

高橋 寿郎

Buprestid-Beetles of Hyōgo-Prefecture. by Tosio Takahashi

兵庫県のタマムシ類に就いての報文は関公一氏の“御影町附近産の甲虫目録、(昆虫界、I, 4, p. 424, 1933)に発表された8種が始めてで其の後矢野文彦、竹中英雄両氏の“大阪府及其の附近に於けるタマムシ科の分布、(昆虫界、VI, 68, pp. 579~588, 1939)中に兵庫県産のものが数種収録されている、戦後山本義丸氏は“兵庫県氷上郡昆虫目録、(1958)に21種を記録された、其の間断片的には県下産の種に就いての報文は見受けられるが全般に汎るものは全くない現状なので一応此処に県下産として従来の記録種及び筆者の採集せしタマムシ類をまとめて発表することにした。

勿論筆者の採集した地域は神戸市中心のものであるので今後の調査に依つてさらに追加種の現われるのは当然であるがそれ等は機を見て追加篇としてまとめて行きたいと考えている。同定に就いても出来るだけ正確を期したが或いは誤りあるやも知れず御教示、御叱正頂ければ幸である。

Family BUPRESTIDAE タマムシ科

Subfamily CHALCOPHORINAE ウバタマムシ亜科

Tribe CHRYSOCHROIINI ルリタマムシ族

1. *Chrysochroa fulgidissima* Schöenherr タマムシ
一般にタマムシと言うのはこの種のみを意味する、美しい種で個体数は少い、特に神戸市内で戦後非常に減った。

幼虫はエノキ、サクラ、カシ、カキ等の材部を喰害し、成虫はエノキの梢上を飛ぶ、一世代3~4年を要すると云われる。

本種の♂は♀に比して極めて少なく山田氏は♂対♀の比を1:40(1932)、矢野、竹中氏は1:4と発表されており、筆者も今の所♂を採集していない。

♀は腹端末節が円く、♂は三角形に湾入する。

(産地) 神戸一御影(関、1933)、**六甲山、鳥原、淡路三熊山(堀田、1959)。氷上郡(山本、1958)美方郡湯村。

(分布) 日本(本州、四国、九州)、朝鮮、琉球、台湾。

Tribe CHALCOPHORINI ウバタマムシ族

2. *Chalcophora japonica* Gory ウバタマムシ

林間や路傍の切倒された新しいマツに多く得られる。幼虫は枯死したアカマツ、クロマツを喰害する。本種は

小楯板を缺くが稀に点状に現れる事があり之は *ab. scutellata* Thery と言う、県下で六甲山よりの記録がある。

本種の幼虫・蛹については清水辰雄氏の報文がある(生態昆虫、III, 8, pp. 2~7, 1950)。

♀は腹端末節が円く、♂は著しく深く割られる。

(産地) 川西市一の鳥居。宝塚市武田尾。神戸市一御影(関、1933)、六甲山(柴内・中畔、1950)、二十渉、山の街。洲本市安乎町、三熊山(堀田、1959)。氷上郡(山本、1958)。養父郡氷の山。

(分布) 日本(本州、四国、九州)、朝鮮、支那。

3. *Nipponobuprestis amabilis* Snellen van

Vollenhoven

アオマダラタマムシ

幼虫はサクラ、ツゲ等の老弱木の材部を喰害する。極めて稀な種で次の如き記録がある。

(産地) 神戸市一御影町(沢野、18-VI-1933, 関、1933)、六甲山(矢野、竹中、1939)。氷上郡神楽、市島(山本、1958)。

(分布) 日本(本州、四国、九州)。

4. *N. querceti* Saunders クロマダラタマムシ

本種も前種にやや似た種であるが上翅上に金緑色の各2個の陥凹紋をもたない事に依り区別される種であるが極めて稀な種の如く次の記録を知るのみである。

(産地) 神戸市一六甲山(矢野、竹中、1939)(柴内、中畔、1950)。氷上郡神楽(山本、1958)。

(分布) 日本(本州、四国、九州)、支那。

Subfamily BUPRESTINAE ヒメタマムシ亜科

Tribe BUPRESTINI ヒメタマムシ族

5. *Buprestis haemorrhoidalis japonensis* Saunders

クロタマムシ

原種は欧州、北阿、小アジア等に産する。広く分布し普通に産する。顔面、腹部末端節両側に赤色紋を有す。

(産地) 神戸市一御影(関、1933)、六甲山(矢野、竹中、1939)、鳥原、山の街。洲本市安乎町(堀田、1959)。氷上郡(山本、1958)。養父郡氷の山。

(分布) 日本(北海道、本州、四国、九州)、琉球、小笠原、台湾。

6. *B. (Cypricis) aurulenta* Linné アメリカアカヘリヒメタマムシ

本種は北米太平洋岸の原産であるが京浜及び阪神地方

* 兵庫県甲虫相資料 12.

からかなりの個体が採集されている。黒沢氏に依ると大正時代に多量に輸入された米松に附着して本邦に輸入されたものらしく、更に最近に至り一部の地方では日本松(黒松)に寄生し本邦に土着するに至つたようであると。

県下では今の所灘区で記録があるのみであり更に調査の必要がある。

(産地) 神戸市灘区(1♂, 宇野正芳, 5-V-1935, 矢野、竹中、1939)。

(分布) 日本(本州、四国)。北アメリカ、オーストラリア。

7. *B. unicus* Miwa et Chūjō ベニオビクロヒメタマムシ

三輪、中条両博士に依り明石産の標本に基いて新種として発表されたもので(昆虫界、Ⅲ. 17. pp. 272~273, f. 18, 1935), 標本は松村博士の採集とあり採集年月不詳とあり、原色で図示されているが不完全標本である。体長 19mm. *B. rusticorum* Kirby (北米産)、*B. haemorrhoidalis* Herbst (欧州、西比利亜産) 及 *B. rustica* Linné (欧州、西比利亜産) に酷似するも本種は赤色の顔面、前頭に2箇の三角形黒色紋を印し、腹部末節に赤色帯を有す、且其の前節の両側に各1箇の赤色小斑紋を有すと言う特徴に依り容易に区別されるとある。其の後採集された事を知らない。

(産地) 明石(三輪、中条、1935)。

(分布) 日本(本州)。

Tribe ANTHAXINI ヒラタマムシ族

8. *Anthaxia proteus* Saunders ヒメヒラタマムシ

6~8月頃花上に普通に得られる。幼虫はアカメガシワを加害する。

(産地) 神戸市一六甲山(矢野、竹中、1939)、二十渉、山の街、金剛童子山、五社。氷上郡(山本、1958)。

(分布) 日本(北海道、本州、四国、九州)、朝鮮、支那、ヒマラヤ。

Subfamily CHRYSOBOTHRINAE

ムツボシタマムシ亜科

Tribe CHRYSOBOTHRINI ムツボシタマムシ族

9. *Chrysobothris succedanea* Saunders ムツボシタマムシ *Chrysobothris* 属は前腿節内側にある大きな歯状突起と上翅の各3箇の陥凹紋により、他属と区別され、本種は同属中最も普通の種と言う事であるが残念乍ら筆者未採集である。

幼虫はカシ、ビワ、ナシ、ヒマラヤシダー等を加害する。

(産地) 神戸市六甲山(矢野、竹中、1939)。氷上

郡柏原(山本、1958)。

(分布) 日本(北海道、本州、九州)、支那、ヒマラヤ。

10. *C. ohbayashii* Kurosawa オオムツボシタマムシ 本種は黒沢氏が京都及び高知産の各1♀に依つて記載されたもので(Mushi, XIX, 15, pp. 15~18, pl. 3 f. 1, 1948), 本属日本産6種中1番大きな種である。兵庫県下からは山本氏のものを知れるのみで極めて稀種であると考えられる。

(産地) 氷上郡市島(山本、1958)。

(分布) 日本(本州、四国、九州)。

Subfamily AGRILINAE ナガタマムシ亜科

Tribe AGRILINI ナガタマムシ族

11. *Toxoscelus auriceps* (Saunders) クリタマムシ 栗樹(*Castanea crenata* Sieb. et. Zucc.)の害虫として知られている、7~8月頃出現し相当硬くなった葉の表面より葉肉を蠕虫状に食害し亦コナラ(*Quercus errata* Thunberg)をも食害している(黒沢、1950)。本種は既に1873年 Saunders に依り *Cryptodactylus auriceps* なる学名で摩耶山から記録されており(Journs. Linn. Soc. Zool. London, XI, p. 513, 1873) 次いで1888年 Schönfeldt は有馬附近産標本を以つて *Cryptodactylus gracilis* の学名で記録、1921年に W. S. Fisher は *Toxoscelus rugicollis* Saunders (比島原産)を神戸より記録しているが(Philippine Journ. Sci. XV, p. 418, 1921) 以上いづれも本種の事である。

筆者未採集なので上記のみしか県下産は知らない。

(産地) 神戸市一摩耶山(Saunders, 1873), 有馬温泉(Schönfeldt, 1888)。神戸(W. S. Fisher, 1921)

(分布) 日本(本州、四国、九州)。

12. *Coraeus quadriundulatus* Motschulsky

シロオビナガボシタマムシ

普通に得られる。幼虫はクマイチゴ、キイチゴ等を加害し、その葉上にて得られる。

(産地) 神戸市一山の街、丹生山。永上郡(山本、1958)。宍粟郡音水。養父郡氷の山。美方郡扇ノ山(奥谷、1954)。

(分布) 日本(北海道、本州、四国、九州)、支那、ヒマラヤ、カシミール。

13. *C. montanus* Miwa et Chūjō ミヤマナガボシタマムシ

体長 11mm. 体青藍色に輝き、灰白色の短鱗毛より成る斑紋を翅鞘に装う。

本種は九州の南部及琉球に産する *C. niponicus* Lewis に似る。

* * 産地の次に括弧で記してあるのは記録者で何も書いてない産地のものは筆者自身の採集に依る。

鳥取県(大山)、広島県(大峯山)、富士山麓の標本を以って三輪・中条両博士に依り美しい原色図を以って記載されたものである。

県下にては稀である。

(産地) 永上郡佐治(山本、1958)。養父郡氷の山(中根、1953)(1Ex., 12-VI-1955)。

(分布) 日本(本州、四国、九州)。

14. *Agrilus sospes* Lewis シロテンナガタマムシ
*Agrilus*属(ナガタマムシ属)は日本産既知タマムシ科の $\frac{1}{3}$ 以上を含む大きな属であるが何れも小形の似かよった種が多いためその判定は困難である。

本種は個体数少く筆者は音水原始林で採集したのみである。

(産地) 宍粟郡音水(1Ex., 20-VI-1959)。美方郡扇ノ山(奥谷、1954)。

(分布) 日本(北海道、本州、九州)。

15. *A. discalis* Saunders ヒシモンナガタマムシ
上翅中央の三角形の大紋に依り簡単に他種と区別出来る。幼虫はエノキ・ケヤキ等を加害する。

(産地) 神戸市一山の街、丹生山。多紀郡竜造寺(山本、1958)。佐用郡久崎。宍粟郡音水。

(分布) 日本(本州、四国、九州)、台湾、ヒマラヤ。

16. *A. tempestivus* Lewis ウグイスナガタマムシ
体は小形(5.5~6.5mm)上翅は唐金色をおびた鶯色、側方より見た場合前背板上面は中央後方に隆起する。翅端は円い。普通に在る種。

(産地) 神戸市一六甲山、鳥原、山の街、丹生山、金剛童子山、大山寺。朝来郡生野。宍粟郡音水。

(分布) 日本(本州、四国、九州)。

17. *A. cyaneoiger* Saunders クロナガタマムシ
普通に産する。

(産地) 神戸市一六甲山、山の街、谷上。州本市安乎町(堀田、1959)、氷上郡(山本、1958)、美方郡氷の山。

(分布) 日本(本州、四国、九州)、支那。

18. *A. lewisii* Kerremans ホソアシナガタマムシ
紫藍色光沢をおび、前背板は暗色をおびる。

関氏は *A. cupes* Lewis カラカネナガタマムシ を御影より記録されているが(1933)此の学名の種は本種に良く似ている種でアサギナガタマムシと言う和名で呼ばれており如何なる種を意味しているのか実物を見なければわからないので此の報文にては一応省いておいた。

(産地) 神戸市一山の街、丹生山、谷上。

(分布) 日本(北海道、本州、四国)。

19. *A. sapporoensis* Obenberger クワナガタマムシ
体色は唐金色で著しく赤味を増す。上翅は会合線に沿って圧せられ、内側隆線は中央不明瞭かすかに前縁に達し

下側隆線は側隆線と合せず。クワの害虫であるが少い種類と考えられる。

(産地) 神戸市谷上。朝来郡生野。

(分布) 日本(北海道、本州、四国、九州)。

20. *A. planefasciatus* Obenberger オオウグイスナガタマムシ

ウグイスナガタマムシに似るが大形で鶯色、上翅は暗色、内側隆線に湾曲し短い。少い種であると考えられる。

(産地) 宍粟郡音水。

(分布) 日本(本州、九州)、ウスリー。

21. *A. nipponigena* Obenberger ツヤケシナガタマムシ

体色は著しく黒味を帯び、内側隆線明らかであるが、短く中央に達しない、下側隆線は後方側線に接し末端は合する。

(産地) 神戸市布引。宍粟郡音水。

(分布) 日本(本州、四国)。

22. *A. vodaki* Obenberger ヲオダクナガタマムシ

体黒色、内側隆線は強く中央で側隆線と合し、下側隆線はほぼ直線状を呈し、後端側隆線と合する。

(産地) 宍粟郡音水。

(分布) 日本(本州)。

23. *A. pilosovittatus* Saunders シラケナガタマムシ

上翅は会合線にそい巾広く銀灰色の短毛にて被われ、内側隆線は強く前縁に達する。

フジの害虫として知られている。余り個体数は多くない。

(産地) 神戸市丹生山。氷上郡(山本、1958)。

(分布) 日本(本州、四国、九州)。

Tribe CYLINDROMORPHINI ホソツツタマムシ族

24. *Paracylindromorphus japonensis* Saunders

ホソツツタマムシ

体は円筒形で複眼は小さく前背板より遙か離れて位置することに依り区別される種で幼虫はススキ類に穿入するといわれている。

(産地) 氷上郡(山本、1958)。

(分布) 日本(本州、四国、九州)、朝鮮、ウスリー、支那。

Subfamily TRACHYINAE チビタマムシ亜科

大部分がチビタマムシ属に属し、ヒラタチビタマムシ属との区別は次の如くである。

1. 上翅側縁にそい肩部より明かな隆線を装う: 体は扁平……………ヒラタチビタマムシ属(*Habroloma*)
2. 上翅には側隆線を欠く: 体は扁平でないものが多い……………チビタマムシ属(*Trachys*)
チビタマムシ属は非常に良く似た種が多いので其の同

定は極めて困難である。其の分類は伊賀氏 (1955) に依ると次の如くである。

1. 上翅は銀灰色 1 色の被毛を装う…………… 3, 4
2. 上翅の被毛は 2 色以上…………… 9, 10, 11, 12
3. 体は大形 (3.5mm 以上) で前背板には金色の被毛がある…………… 5, 6
4. 体は小形 (3.2mm 以下) で前背板の毛は少なく、金色でない…………… 7, 8
5. 体は楔形で肩部は突出し頭部前縁は弱く凹み前背板は金色毛(稀に灰白色)を密生し上翅は黒色で銀灰色の 2 横帯を装う (4mm) (加害植物、クス)……………クスノチビタマムシ
6. 体は長形で肩部の突出は弱く前背板の毛は褐色味をおび密でない、上翅は黒色で銀灰色の 2 横帯を装う (3.5~4.5mm) (加害食物、ウツギ)……………ソウンダースチビタマムシ
7. 頭胸部は黄銅色~青銅色、上翅は銅黒色で 2 横帯は強く波曲する (3.2mm 内外) (加害植物、ヤナギ属の植物)……………ヤナギチビタマムシ
8. 体は短大、体背面は唐金色ををおびた暗銅色で上翅に 3 横帯を装い、第 1 帯は不明瞭、第 2, 3 横帯の波曲は少ない (加害食物、ウメ、スモモ)……………ウメチビタマムシ
9. 体は大形 (3.8~4.7mm) 体毛は一様で金褐及び銀白の 2 色を不規則に散布し横帯は不明瞭である (加害食物、シイ)……………サシゲチビタマムシ
10. 体は短大 (3.5mm) で頑強、前背板には横に 4 個の無毛紋を現わし上翅の波状帯は金茶褐色で、灰白色で縁取られる (加害植物、穀斗植物)……………ダンダラチビタマムシ
11. 体は卵形 (3.5mm 内外)、やや瘠形で地色は唐金色で赤味強く 3 波状帯 (第一帯は不明瞭)、細く銀灰色 (加害植物、ケヤキ、エノキ、ムクノキ)……………ナミガタチビタマムシ
12. 体は小形 (3.2mm)、地色銅色、金褐灰褐色短毛を密に装い上翅に 2 波状帯を有し、顔面の触角窩の直上に深い小凹陷を有する (加害植物、ウツギ)……………アカガネチビタマムシ

本属の幼虫、蛹に就いては矢野氏の貴重な報文がある (Trans. Shikoku Ent. Soc., Ⅷ, 2, pp. 17~40, 1952)。

25. *Trachys griseofasciata* Saunders ナミガタチビタマムシ
(産地) 神戸市一御影、山の街、丹生山、谷上。氷上郡 (山本、1958)。
(分布) 日本 (北海道、本州、四国、九州)、朝鮮、支那、東シベリア。
26. *T. robusta* Saunders サンゲチビタマムシ
(産地) 神戸市鳥原、丹生山。宍粟郡音水。
(分布) 日本 (本州、四国、九州)。
27. *T. variolaris* Saunders ダンダラチビタマムシ
(産地) 神戸市一六甲山、山の街、谷上。氷上郡 (山本、1958)。
(分布) 日本 (本州、四国、九州)、支那。
28. *T. saundersi* Lewis ソウンダースチビタマムシ
(産地) 神戸市一六甲山、鳥原、丹生山、谷上。氷上郡 (山本、1958)。朝来郡生野。養父郡氷の山。
(分布) 日本 (本州、四国)、小笠原。
29. *T. auricollis* Saunders クズノチビタマムシ
(産地) 神戸市一摩耶山、谷上。氷上郡 (山本、1958)。宍粟郡音水。養父郡氷の山。
(分布) 日本 (本州、四国、九州)、台湾。
30. *T. minuta* Linné ヤナギチビタマムシ
(産地) 神戸市一六甲山、山の街、丹生山。氷上郡 (山本、1958)。養父郡氷の山。
(分布) 日本 (北海道、本州、四国、九州)、旧北州北部。
31. *T. inedita* Saunders アカガネチビタマムシ
(産地) 神戸市御影 (関、1933)。飾磨郡雪彦山。
(分布) 日本 (本州、四国、九州)、台湾。
32. *T. inconspicua* Saunders ウメチビタマムシ
(産地) 神戸市一六甲山、二十渉、鳥原、山の街、谷上。宍粟郡音水。
33. *Habroloma Iewisi* Saunders ルイスチビタマムシ
体長 3 mm 弱の小形種である。ノバラの葉から採集されると記録されている、美しいが珍しい種である。
(産地) 養父郡関宮町 (奥谷、1955)。
(分布) 日本 (本州、四国、九州)、朝鮮、中支。
34. *H. elegantula* Saunders ヒラタチビタマムシ
背面は唐金色、金色毛を全面に装い上翅波状帯は不明瞭で銀灰色毛を混ざる。本種も珍しい種である。
(産地) 氷上郡 (山本、1958)
(分布) 日本 (本州、四国、九州)。(25-Ⅷ-1959)